

お取引様 各位

お客様アンケートご報告

拝啓 貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。
 毎々格別のお引き立てを賜り、ありがたく厚くお礼申し上げます。
 さて、このたびはご多忙の中、弊社業務に関するアンケート調査にお応えいただき、誠にありがとうございます。

今回ご意見を頂戴した中で、一部ご紹介させていただきます。

『浴室のチョウバエの発生が酷いので、何とか撲滅して頂ければと思います。協力して、効果が出れば良いと考えております』

大変申し訳ございません。今後、現状の施工方法を見直し、害虫が完全に止まる様に施工いたします。こちらの店舗では薬剤処理プラス、発生源が排水配管内部である事から、逆止弁のついた排水口を設置し、配管からの店内侵入を防止いたします。また、よりよい結果が出るように最善を尽くします。今後ご指導ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

『結果には大変満足しております、ありがとうございます。紹介先があればFCCさんにご紹介したいと思います。』

誠にありがとうございます！

現場の状況を詳しく教えていただき、私共も満足している施工が出来ました。

やはりお客様あつての弊社です。現状に満足せず、お客様が本当に必要なものを追求して行いたいと思っております。本当に心から感謝いたします。

皆様ありがとうございます。

『できましたら、施工予定日を1ヶ月半位前にご連絡頂ければ幸いです。宜しくお願いします』

大変申し訳ありません。ゴキブリ駆除更新作業の事前連絡につきましては、他のお客様にもご要望やご不満を頂きます。少しでも皆様のご要望に答えられる様に改善していきます。

今回の件につきましては、次回点検以降しっかりと対応させていただきます。今後とも宜しくお願いします。

掲載スペースの関係で一部のご報告となりますが、多数のご意見をいただき大変ありがとうございます。いただいたご意見・ご指摘・ご鞭撻は今後の業務に生かさせていただきます。

宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

昨年2月よりアンケート調査を毎月行っております。引き続きご協力いただければと存じております。

アンケート専用FAXのフリーダイヤルを設置しておりますので、こちらもご利用くださいませ。

お客様アンケート
お問い合わせ専用FAXフリーダイヤル

見ないムシ

0120-32-3164

※一部八県以外はご利用出来ません。
 (東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・茨城・群馬・山梨・静岡)

FCC News
 2013年5月号 No. 0109



Index

お客様アンケートご報告

社長コラム&社員コラム

季節のムシ暦(65)

生活の豆知識

商品案内

株式会社FCC



〒251-0043

神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

Tel 0466-31-3164

Fax 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

社長コラム

湘南ではたらく小さな会社の社長のblogより

鯛

鯛× …たい〇 (^▽^)

今回は社会性も人間性も無視して自分だけのことを言います。

楽しく生きたい。しあわせに生きたい。見たい、知りたい。男らしくいたい。

あと浪花節で生きたい。困った人には手を差し伸べたい。強くなりたい。

優しくいたい。常に挑戦したい。チャレンジャーな人生を送りたい。

人生50年を少し振り返りました。ん〜しあわせです。やりたい事やってきたから。

趣味で言えば、子供の頃泳げなく、しかも海が恐かった自分が、かっこいいだろうな〜だけの思いでサーファーに。就職前には全日本にも行けました。充分です。こんなもんです。

海の生活に憧れて、波乗りを初めて覚えた湘南に移住しました。小さな家も手に入れる事が出来ました。

臆病になった心を強くたく、30過ぎて格闘技を始めました。一番強い団体（当時私が勝手に思っただけです。色々な団体があり、考え方も色々あります）に入門したいと思い、37歳で大道塾へ。黒帯を夢見ました。で今締めています。

32歳で会社を辞めました。独立して会社起業を夢見ました。今、経営者としては全く大した事ないですが、当時からしたら夢のようです。

で50歳、新しい事業を始めました。事業の夢はまだあります。プライベートの夢も沢山あります。

60歳になっても私はチャレンジャーでいたい。70歳でもチャレンジャーでいたい。80歳でも三浦雄一郎に負けなでいたい。そのためには健康でいたい。

私は年だからできないなんて口が裂けても言いません。若い者には負けな気概はもっていたい。私の人生はチャレンジャーです。

でも今までの人生も鼻くそみたいな小さな夢ですが、すべて叶っています。世の中で自分が一番楽しく生きていると思っている私です。

おめで鯛(^▽^):)

パソコンからFCCブログをチェック!!

FCCニュースに掲載しているブログ記事以外にもFCCホームページには多くのブログがあり、業務の事や日常の出来事など様々なエントリが投稿されています。

気になった方は

トップページから全てのブログにアクセスする事が出来ます。

FCC社員コラム

タクゾーブログより

地元の話

神奈川県に引っ越してきてから早いものでかれこれ2年が経とうとしています。

私は、元々埼玉県出身になります。

ブログを始めてから自己紹介をしておりますでしたので、今回は私の地元埼玉県加須市をご紹介します！

・・・かす市？ いいえ！

かぞ市です。加須市で有名な物と言えば皆様ご存知の通り「鯉のぼり」です！

※ちい散歩でも放送されました。

戦前から日本一の生産量を誇っております。

そんな加須市が来月の5月3日に毎年行われている「じゃんぼこいのぼり祭り」を行います！

全長100m、重さ350kg、目玉の直径10mのじゃんぼこいのぼりの遊泳をただ眺めるというお祭りです。

・・・ただ眺めるのです。



見て下さい！この大きさ！！

GW真っ最中に行われます。

お時間あればぜひ日本一の鯉のぼりをご覧くださいってはいかがでしょうか？

【ムシ学の事始め】

まだ、中国大陸の「鳥インフルエンザ」の事態は、不明のまま死者だけが、増え続けている。また、国内で続いた「ダニ咬傷」も、まだかと思う程、死者が増えた。

何れにしても、国の内外を問わず、感染症による死者の増加は、何か異変を感じ、落着かない。また、この所、朝日新聞の紙面、「天声人語」に、度々、虫の話が取り上げられたが、これも珍しい事である。

この様な、話題性の背景には、何か、「虫の知らせ」があるのかもしれない。

この機会に、今一度、今日の「昆虫学」への経緯や虫由来の疾病などについて、再認識を思い立ち、初期の「ムシ学」を確かめた。

今、私達は、虫退治や害虫駆除の場で、「虫」を語るが、その源流を正しく理解しないままであった。

今回、古い資料や古文書からこの原点を探る内、判ったのだが、古典ムシ学は、今と社会の仕組みが、全く違う中で生まれたと言うことだ。

わが国の「博物学」の出発点は、中国からの渡来に始まるが、文献的に確かなのは、意外に新しく、今から417年前のことである。

これは、中国の「明」の時代の人、季時珍と言う人の著したものである。おそらく、この書物は、幕府へ献上のものであったろう。

この書籍は、「本草綱目」と称するもので、本文が52巻、付図2巻とからなる大著である。なお、この本は、動植物、鉱物などを薬効の有無、利用価値を中心に編集されたものである。

その中で、昆虫を卵形類、化虫類、湿性類に分類している。虫を薬や特殊成分の材料として評価しているようだ。

わが国の昆虫学は、この著書が、江戸時代に持ち込まれた時点で始まったと言える。この中に、106種の虫が記載されているが、これらの虫とわが国産の照合、確認作業が、わが国の「虫事始め」なのだろう。

その後、数々の著者が世に出るが、百科全書的なものや図説的なものであった。

この時代の代表的な著者は、寺島良安の著した「和漢三才図会」で、105巻からなる大著である。

今から300年も昔のもので、今日の「昆虫図鑑」には及ばないが、93種の虫が図示されている。

なお、江戸期の後期には、実物大の生態図が示され、習性や特記事項を付記した「虫譜」が出版されていた。

しかし、これらは、大名家であったり武家社会のもので、一般庶民とは程遠い存在であった。

良く知られているのは、熊本藩主である細川重賢の「昆虫胷化(シヨク)図」や「虫類生写(イクウツシ)」である。

精巧で学術的価値は高いが、大名道具であって一般的なものは無い。

なお、現代の昆虫学を形造ったのは、幕末に來日した外国人技術者の業績である。良く知られているのは、ドイツ人のケンペルやシーボルトの業績である

昆虫学が、飛躍的な発展を遂げるのは、明治維新後のことである。また、昆虫学と言う虫の専門領域が、学校の講義で行われたのは、佐々木忠二郎博士が1881年に農学校で講じたのが最初である。

これは、日本の基幹産業ともいべき、農業分野のことで、長足の進歩というべきかもしれない。では、人の健康と密接な関係にある、衛生害虫の世界はどうなるのか、その歴史を辿ってみよう。

この分野は、19世紀末に、古い時代より世界各地で、大問題を起こした伝染病の中には、「昆虫」が大きな役割を果たして事が、明らかにされてからである。

その病気には、マラリア、ペスト、黄熱、 Dengue 熱、睡眠病、発疹チフスなどが知られている。

この病気を媒介する虫が、ハマダラカ、ネズミノミ、ネッタイシマカ、ケオプスネズミノミ、シラミであることが、解明された。

虫と病気の世界的な研究として有名なのは、ハマダラカからマラリア原虫を発見した事で、今から116年前のことである。

この研究で、英国人のロス博士は、1902年にノーベル賞を受けている。

その後、フランスのニコル博士が、1928年にシラミの発疹チフスの媒介の研究で、ノーベル賞を受けるなどの業績があって、今日の「衛生昆虫学」が、確立された。

まだまだ、衛生害虫の研究の歴史は浅く、未知の部分が多い。今、話題のインフルエンザも、どんな節足動物が、関与しているのかわからない。

今日の現象を見て思うのは、今一度、「ムシ学」の原点から学び直す時期かもしれないと言うことだ。

ハエ、カ、ゴキブリ、ナンキンムシ、ノミ、シラミは、生活の場の都市型環境に上手に適應してきた虫だ。

この虫達の時代、時代に見せた顔を知るのも、必要な事である。

【写真説明】

“セミ”

私達は、風流的に眺めるが、幕末の外国人技術者は、果樹の害虫と見ていたと言う。



生活の豆知識

コクヌストモドキについて

暖かくなると、様々な害虫が発生してきます。

さて、今回は食品害虫の大害虫として問題となっているコクヌストモドキについて紹介したいと思います。

コクヌストモドキは甲虫目ゴミムシダマシ科に属する昆虫で、コクヌストモドキとヒラタコクヌストモドキの2種が特に食品害虫として重要な種類です。

体長3~4mm程度、体型は細長く扁平な形状で、表面は赤褐色でかすかな光沢があります。ヌストモドキとかなり似ていますが、一般的には、触角の先端3節が目立つほど太くて、複眼間の幅が狭く、また飛翔することができる点で区別がつかます。

発育期間は条件（餌、温度、湿度）によって異なりますが、通常春から秋にかけて年2~4世代以上発生します。また、成虫の状態で越冬します。

世界的にも日本においても食品害虫の大害虫として問題となっている、両種ですが、2種とも被害状況が良く似ています。特に製粉工場や飼料工場的小麦粉などの穀粉においてよく発生が見られます。

また、製菓・製パン工場ではビスケット、チョコレート、パンなど、一般家庭や食品店では小麦粉、ヌカ、粉ミルク、煮干などからもしばしば発生が見られます。そのほか、乾燥果物や乾燥野菜からも発生する場合があります。

穿孔能力が強く、通常の食品包装では簡単に侵入してしまうため食品に混入する被害を起こします。

■防除方法■

発生源が穀粉か乾燥物なため、それらの管理が重要です。床などにこぼれたカスからも発生するため、その除去を行うことが第1です。また、食材は密閉容器に入れるなど管理にも気をつけて下さい。

発生源を調査するためのフェロモントラップなどもありますので併用して頂き、発生源を追及して下さい。もし発生源を特定できたら、原因の除去とコクヌストモドキを市販の殺虫剤などを使用し駆除して下さい。

清掃と温湿度管理（低温・低湿度）によって増殖を抑えられますので、工場や倉庫の棚、板、袋などの下の部分までこぼれた粉粒などをそのまま放置せずに早めに掃除し、発生源を除去することが基本となります。

餌となる食品は密閉容器などに入れて保管します。市販の燻煙剤や殺虫剤を噴霧すれば殺虫できますが食品に直接使用することは極めて危険なので、弊社に一度ご相談くださいませ。

FCC商品紹介

床発泡洗浄装置 ベビーフォーマー

15,750円（税込） / 1個

水道圧を利用するハンディタイプの発泡洗浄装置です。

水道ホースに繋ぐだけで作業が開始できます。軽量で作業が楽に行なえます。洗浄・すすぎはワンタッチで切り替えができます。

また、チップを挿入することで温度切り替えが簡単にを行うことができ、一定の洗浄温度を常に保つことができます。



アデカフォームエイドR-5

7,875円（税込） / 1個

ベビーフォーマーに入れるだけで洗浄が行なえます。

水道ホースに繋ぐだけで作業が開始できます。軽量で作業が楽に行なえます。洗浄・すすぎはワンタッチで切り替えができます。

また、チップを挿入することで温度切り替えが簡単にを行うことができ、一定の洗浄温度を常に保つことができます。



FCCオリジナルエコ商品の販売や、衛生に関する店長ブログなどもあります！

気になった方は